

次代担うベンチャー

インキュベーション施設から飛躍

◆6◆

さまざまな産業分野で使われるテープ、フィルムやトレーなどの加工・製造販売を幅広く手がけているのがシーエステック。2000年ごろの「ガラケー」全盛の時代は次々と市場が取れた（谷口義隆社長）というように、製品の流行り廃りと密接に関わるのが同社事業の特徴だ。今、医療関連を重点領域と捉え、神戸健康産業開発センター（HI-DEC）に設けたR&Dセンターで、メディカル新製品／新サービスの開発・実用化に余念がない。

携帯電話、ゲーム機、リチウムイオン電池、各種家電・精密機器、車載機器……。同社製品群の守備範囲は広く、また、その市場環境はダイナミックに変わっていく。そのため、市場や顧客ニーズの行方を見通して、迅速かつ的確に変化に対応することがビジネス成功の鍵となる。

テープの代理店に勤めた後、1999年に独立・起業した谷口社長は、サラリーマン時代に、顧客への迅速な対応がいかに大切か、身を持って知り、その思いを新会

シーエステック(HI-DEC)



入居企業紹介パネルの前に立つ谷口氏

社の社名に込める。シーエスのシはチャレンジの「C」、エスはスピードの「S」。何事にも挑戦し、スピード感あふれる事業を遂行するとの意図を表した。

市場をウオッチし、変化を予測する中で浮上したのが医療分野だ。同社が得意とする画面テープ・フィルムの加工技術を生かすことができ、市場は持続的な伸びが

見込める。谷口社長が医療への関心を高めている折、ひょんなきっかけからHI-DECを知り、同施設内に研究開発の拠点を開設する。2014年のことだ。

同社ではこの神戸R&Dセンターで、医薬品開発などでの用途拡大が予想されるマイクロ流路チップの研究開発に着手し、成果を収

神戸R&D拠点で医療市場開拓

マイクロ流路の利活用を広く提案

外線系の特殊なレーザー加工機を導入した。これにより、他社では困難な超微細加工が可能になったという。谷口社長は「バイオ関連の企業などに提案型の営業を行い、初期の段階からの共同開発を進めたりしている。初期段階から協力することで、将来、量産段階に移行した際の大口の受注も期待できる」と先々を見通している。

HI-DECが位置する神戸ポートアイランドには、先端医療技術の研究開発拠点が集積している。神戸医療産業都市と呼ばれるものだ。その地にR&Dセンターを構えたことは、会社のブランディングやイメージアップの面でも大いに寄与している。同社ではホ

めいている。マイクロ流路チップとは、プラスチック製のフィルム・薄板などに微細加工を施し、微小流路や反応容器を形成して、バイオやケミカルの基礎・応用研究に役立てるもの。創業DNA検査、生体物質分析、有機合成をはじめ、多方面で活用できる。

一連の研究開発のため、UV（紫外線）によるセールスに力を入れていたが「センター開設を機に、メディカル系の企業や研究機関からのアクセスが増加している」（谷口社長）。

また、神戸医療産業都市に進出している、大手からベンチャーまで国内外、さまざまな企業や、大学・研究機関との交流から、多

シーエステック▽本社所在地▽大阪府高槻市大手町3-60▽神戸R&Dセンター▽神戸市中央区港島南町6-7-4 (HI-DEC 102)▽代表取締役▽谷口義隆氏▽設立▽1999年10月▽事業内容▽テープ・フィルムの受託加工▽アクセサリー、工業用部品、トレーの製造販売▽資本金▽1000万円▽従業員▽22人▽本社▽072-662-9191

HI-DEC (神戸健康産業開発センター)▽開設▽2006年11月▽施設▽4階建て、延べ床面積2100平方メートル▽居室▽全24室、全室ワットラボ仕様、各室は30〜80平方メートル

る。こうしたことから「医療関連の売り上げは、まだ全体の10%いくかどうかだが、伸び率は200%と高い」（同）といった状況があり、近い将来、医療分野が同社の主戦場となりそうだ。

同社は10年以上前に中国に拠点を設けるなど、早くからグローバル展開に力を入れている。また、フィリピン向けにメディカル系の製品輸出も手がけているという。神戸R&Dセンター発の成果物が、世界各国の市場を開拓する日も遠くない。